

「やまがた公益大賞10周年記念誌」の発行に寄せて

山形県NPO推進委員会委員長

東北公益文科大学 教授 武田 真理子 氏

「やまがた公益大賞10周年」を迎えるにあたり、山形県及び関係者の皆様に心より御祝いを申し上げます。

公益大賞は、「優れた公益活動を顕彰し、広く県民に紹介することによって、NPOやボランティア活動への県民の関心を高め、公益活動を一層活性化していくこと」を目的とし、平成19年度に創設されました。以来、県内で活躍する特定非営利活動法人、高等学校のクラブや研究会、ボランティア・サークル、地縁組織、任意団体など多様な形態の公益活動実践者が表彰されて参りました。連帯、支援、調和を原点とする公益原理に基づく活動や政策の研究と教育に取り組む東北公益文科大学としてはこの取り組みには大きな期待を寄せており、「やまがた社会貢献基金」の創設とあわせて全国に先駆けた施策を展開されてこられた山形県の皆様に御礼申し上げます。



現在の日本社会は世界で最も急激な速さで少子高齢化と人口減少が進んでいます。自ずと行政、企業、地域社会等の既存組織の役割が変化しようとしています。私たちがこれからも住み慣れた地域で暮らし続けるために、或いは後世にとってもより良い暮らしを実現するためには、多様な地域課題解決のための新たな方法、担い手、つながりや価値の創造が求められています。これまでの公益活動は一見当たり前と思われる、目立たない、地道な実践も数多くありましたが、いまこそ、それらの活動の評価や見直し、そして新しい時代ならではの発想やつながりに基づく新たな実践を生み出すことが望まれています。

他者のため、皆のためであると同時に自分のためにもなり、将来世代のことも考えながら、多くの人や組織との連携や協働に基づく公益活動がより多くの地域に根付き、山形県が日本一元気で、暮らしやすい場所になることを祈念しております。

平成28年11月